
未来ノ軌跡

紫音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

未来ノ軌跡

【Nコード】

N1073X

【作者名】

紫音

【あらすじ】

警告！

この扉を開くと貴方は帰れないかも知れない

逝きますか？逝きませんか？

この物語は主人公最強物です。苦手な人は今すぐ回れ右！

いや、左でもOKですよ？

まあとりあえずそのちよつと存在が薄そうな君！見てってよ、見ていこうよ！

ん？ストーリーが分からないって？気にするな少年よ。この精霊のミーシャ様に任せていたら後悔しないよって・・・ちよつとシルク、耳引っ張らないで！。助けてママーン！

終わりのトキ

『ここは何処だ？』

『俺は誰だ？』

『暗い・・・くらい・・・クライ・・・』

暗い闇の中に立ち尽くしている少年とその周りを囲むかのように見守る紅、蒼、緑、茶の光を纏った四人の女性。

その女性達が口を開くが何を言ってるのかわからない。

遠くで鳴っている大きな音と共にその世界は崩壊していく。少年はその女性達が消えるのをただ見つめ、目を閉じた。

目を覚ますとそこは先ほどの暗い世界とは違って変わり白い天井、窓から差し込む朝の日差し。

少年、麻野雄二の部屋であった。

「またあの夢だ…」

幼い頃に良く見ていた夢を最近毎日のように見るようになり呆れ、首筋を左手でかく雄二。

何故、高校2年にもなった今この夢を再び見るようになったのだろうと疑問に感じ悩んでいると階段の下から女性らしい甲高い声で声を張り上げる一人の女性。

「雄二早くしないと遅刻するわよ？」

「わかってるよ、姉貴」

雄二は、自分の姉、麻野凜に同じく声を張り上げ返事をし、直ぐ様学校に向かうための用意を始めるのであった。

「早くしなさいって言うてるでしょうが！」

用意が遅かったのか、部屋に乱入してくる姉。雄二は直ぐ様逃げようとするが、その方向には既に先回りした姉が回り込んでおり、朝から痛み付けられた。

これが麻野雄二の日常であった。

「あんたが遅いから遅刻するじゃないの」

先に行けば良かっただろうにっとな心の奥底で呟きながら姉の後ろを走って行く雄二。

その瞬間、雄二はその後ろから背筋が凍るような冷たい視線を感じ振り向くが誰もいなかった。

「・・・・・・・・！！」

姉がなにやら遠くで焦ったように叫んでいる。

再び走りだそうとしたその時右側から鳴るクラクションの音。

死んだと確信し目を瞑ったその時前から押され俺の体は飛ばされた。

目を開くとそこには店に突っ込んだトラックと・・・頭から血を流し倒れている姉がいた・・・

「……………!!」

声にならない叫びをあげ、目から涙を流す。

そんな時、雄二の頭に声が響く。

助けましょうか？その少女を。その女性を。その方の未来ヲ。

その言葉を聴き何度も泣きながら頷く。

良いでしょう。では逝きましょう生と死が散乱する世界へと

そのまま俺は電源が落ちるかのように目の前が暗くなった。

新たなるスタートライン

何だ？眩しい・・・

目を開くとそこには何やら見守るような視線を向けている数人の人。

俺は眩しいので目を擦ろうと・・・擦ろうと・・・
なんじゃこりやああああ！！

大声で叫ぶと俺の声は産声になっており一人の女性に抱き締められた。

え？なんで？ちよつとなんで？なんで俺赤ん坊になってんだ！？

あーあーテストス

ん？また声？って姉貴はどうなったんだ！早く戻らないと

テストしてる最中に質問するな！ちよつとは落ち着きを見せない
と女の子に持てないぜ？雄二君、いや今の君の名は違うか

俺は確信したその時この声の主が元凶だと・・・

「おめでとうございますバラン様にレイン様。」

冷静に物を見ると今の俺は赤ん坊で、今産まれて、そのバランと
レインと言う人が俺の両親らしい。

「ミーシャこっち来なさい」

優しい口調で話す長く美しい翠の髪の女性の後ろから現れた小さな・
・小さな？って小さすぎだぁー！！

ピーターパンに出てくる妖精並みに小さな少女と呼んでいいのか分からぬ女性。

小さいって反応が普通だぞ？雄二君

ニヤニヤと覗きこんで来る翠の髪妖精ってお前が声の主か！？

うむ。そしてお前の名付け親に任命された妖精ミーシャさんだ。
喜べ、そして泣きながら俺に忠誠を誓うのだ

頭の中で某悪役みたいな高笑いをするミーシャ。

「さて、バラン殿。この子の名を決めたのだが」

「うむ、聞かせて貰おう。我の、我々の息子の名を」

えっとミーシャさん普通なのでお願いしますね？

却下でありますよ雄二参謀長官殿

ニヤニヤしながら名前を告げてるミーシャ。

「この子名はシルロード・クライシス。このクライシス家に未来へと続く橋を作る者です」

こうして、俺の新たなスタートは始まった。

新たなスタートライン（後書き）

何やらもうお気に入り登録されてるみたいで皆さんには感謝です。
下手は下手なりに頑張っていきたいので応援してくださいなあ

悲劇の後

『悪魔の子!!』

火で燃える家。怯えて泣きわめく俺の妹アーニヤ、震えながら妹を庇うように抱き締め叫ぶ母、その母の目に映るは紅く光る目をした俺自身。

ふと後ろを振り返ると派手に散った人だったと思われる肉片の数々。俺は正気に戻りただただ悲鳴のような叫び声をあげた

俺は汗まみれで布団から飛び起きた。

あれから15年の月日が流れた・・・

窃盗、殺害、生きるためには何でもやった。

今日も生きるための生活費を求めスラム街にある部屋を俺は後にした。

アルランド王国大通りPM18:28

「らっしやい、らっしやい」

今日もこの町は活気にあふれ、人通りも多い。
俺の穴場だった。

横を素通りする女性剣士。

よし、今日の獲物はコイツにするか。そう思い、相手にぶつかり、その隙に相手の腰に手を伸ばす。

失敗するはずもなかった。今まで10年も磨きあげたスリのテクニクだ。しかし、相手の腰には先ほどまであったはずの巾着がなくなっており、自分の懐に風が通りすぎた。

「つつ!!」

不安に思い直ぐ様懐に入れていた自分の巾着を探す。

ない・・・

直ぐ様振り返ると少し先で立ち止まっている美しい金色の長髪を風に靡かせている女性剣士を眺めた。

「ついてこい・・・」

女性剣士は振り返ることなく歩いて行く。

俺は気づかれたとも、逃げなくてはとも思った。しかし、その女性剣士の綺麗な金色の髪に見いられたのか気付くと相手の後ろをついていつていた。

アルランド王国大通り（甘味屋）PM17:10

俺はなぜか女性剣士と共に餡蜜を食べていた。

なぜだ、なぜこうなった。

普通なら騎士などに突き出すだろうと疑問に感じながらも警戒しつつ餡蜜を食べる。

すると女性剣士が口を開いた。

「筋は良いが今回は相手が悪かったな」

ニヤリと笑いながら俺の巾着であろう物を懷から取り出す。

「何が目的だ・・・」

「目的など無い、ただの気まぐれだ。」

「さつさと騎士にでも売り渡せば良いだろう？俺は失敗したんだ。」

投げやりにいい放つ俺に女性剣士は、ほうつと笑い俺に選択肢を与えた。

「面白い事を思い付いた。貴様、騎士に売り渡されるか、私と共に来て冒険者になるか決める。

あつ、まだ自己紹介してなかったな。私はルルフェット、ルルフェット。オズウエル。ハーフエルフだ。」

「自己紹介なんか・・・シルクでいい。」

ルルフェットは名前を名乗ったのを共に来る事の同意と確認すると俺の手を引き、代金を払い甘味屋を後にした。

ちなみに俺の巾着から・・・

Error

ルルフエット曰く冒険者になるためには冒険者ギルドと言う所に登録しないと行けないらしい。そのため、俺たちは今、冒険者ギルドの前までやってきた。

「こんばんは、冒険者ギルドにようこそ。本日担当させて頂くジャンヌと申します。」

「今日はコイツの登録をお願いしたい。」

ルルフエットはそう言うその後ろでキョロキョロと辺りを見渡していた俺をジャンヌの前に突きだした。

「なるほど、新規登録の方ですね。ではこちらに」

ジャンヌは自分の後ろにあるドアを開け俺を中に入るように手招きをした。

俺は誘導に従い中に入ると中にある機械に驚きを隠せずにいた。そこにあつたのは人が一人入れるくらいの大きな一つのカプセルと大きな機械。白い部屋にはこれでもかと言つくらいの明るい照明だった。

「では、こちらの中にお入りください。」

そう言うジャンヌは機械の前にある椅子に座り何やら作業を行う。説明も無しだった為、頭に？を沢山浮かべカプセルの中に入る。するとカプセルの中に蒼く半透明な液体が入って行く。

「つつ!?!」

びっくりし、息を止めるも一分も持たず液体を飲み込んでしまい、軽いパニック状態に陥るも息が出来る事にびっくりし、目を瞑る。

「では、始めます。」

ジャンヌはそのまま機械をいじっていく。

蒼い液体が紅く変わり機械の画面にはエラーの文字が並ぶ。

『えっ、こんな事あるはずが』

私は驚きを隠せず急いでキーボードを打ち込んでいく。

すると、エラーの文字の代わりにカタストロフィの文字が浮かび画面が黒くなりカプセルが開く。

機械からは黒い煙が立ち上り、カードが機械から出てきた。

「なんだったの、いったい・・・」

「うっ・・・」

口から胃まで入っていた液体を吐き、咳き込みながらカプセルから出る。

「うっ、うん。一応出来たわよ？」

そう良いながらジャンヌは俺の手に一枚のカードを手渡した。

名前：シルロードⅡクライシス

発行者：ジャンヌⅡシャーロット

称号：無し

L V : 1

S T R : D

D E X : C

V I T : D

A G I : C

I N T : E r r o r

M N D : E r r o r

「エラー？」

「訳わかんない・・・エラーってこんなの初めてよ」

頭を抱え悩むジャンヌ。悩んでも分からないと思ったのかため息を漏らし、部屋を俺と退出した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1073x/>

未来ノ軌跡

2011年11月11日12時33分発行